

＜補足資料＞ 第3次計画期間中における主な取組

1 家庭における取組

(1) 家庭における取組

① 保護者の読書活動への理解の促進

- 平成21年度に開設した子ども読書支援センター（県立図書館内）において保護者や子ども読書関係者を対象とした研修会等へ講師（子ども読書推進員）を派遣・紹介し、読み聞かせや読書の重要性を啓発しました。

○子ども読書推進員の派遣・紹介(平成21年度～)

- 県立図書館において、新聞や地域の子育て情報誌、県の情報誌等へ記事を定期的に掲載して年齢に応じた本を紹介したほか、乳幼児期からの読み聞かせの必要性や読書活動の重要性などについて紹介しました。

② 家庭における読書活動への支援

- 県教育委員会（社会教育課）では、家庭における読書習慣の形成を図るため小学校低学年・中学年・高学年向けに『チャレンジ読書日記』を3か年計画で発行し、県内の小学校へ配布しました。

○『チャレンジ読書日記』(小学校低・中・高学年用)の発行(平成28～30年度:社会教育課)



- 県立図書館において、保護者を対象に乳幼児への読み聞かせやわらべうたの体験講座、読書の重要性への理解を促進するための講座を実施し、家庭での読書活動の充実を図りました。

○「楽しもう! わらべうたで子育て講座」（平成27年度：県立図書館）※年1回

○「子どもを知ろう! 子育て講演会」（平成28年度：県立図書館）※年2回

- 県立図書館において、乳児から幼児向けの絵本と育児書のセットを宅配貸出するサービスを引き続き実施しました。

○児童書・育児書宅配サービス（平成21年度～：県立図書館）

- 県内におけるブックスタートの取組はさらに広がり、平成30年度では18市町村のうち16市町村が実施しています。赤ちゃんに絵本を手渡すだけでなく、図書館職員やボランティアによる読み聞かせを行うことにより、絵本でコミュニケーションをとる楽しさを保護者へ伝え、家庭での読み聞かせの充実につなげています。

○ブックスタートの実施・・・16/18市町村(平成30年度時点)

- 平成27年度から、県と県内市町村において、地域の子育て支援サービスに使用できる「おおいた子育てほっとクーポン」(10,000円分)を就学前(初年度以降は新生児)の子どもがいる家庭へ配布しています。市町村独自のサービスとして、16市町村(平成30年度時点)で「読み聞かせ絵本の購入」が追加され、家庭に絵本がある環境づくりが支援されました。

○「おおいた子育てほっとクーポン」(平成27年度～)での絵本の購入支援の導入

…16/18市町村(平成30年度時点)



【国東市ブックスタート事業で読み聞かせをする子ども司書】

【『はじめよう わらべうた』
平成26年度:県立図書館】



2 地域における取組

(1) 図書館における取組

① 公立図書館の整備

- 第3次計画中、県内4市町において図書館の新館建設やリニューアルが続き地域の子どもの読書環境において大きな充実が図られました。

【新館として開館した図書館】第3次計画中(平成26～30年度)

平成27年7月	日出町立図書館(新館)
平成29年5月	竹田市立図書館(新館)
平成30年3月	杵築市立図書館(新館)
平成30年4月	国東市国見図書館(国見保健福祉センター内へ移転)

② 読書に親しむ機会の提供

- 県立図書館では、乳幼児向けのおはなし会の手引きとして『はじめよう わらべうた』を発行し、図書館や公民館、児童館などへ配布しました。

○『はじめよう わらべうた』の発行(平成26年度:県立図書館)

- 県立図書館において、発達段階に応じたおはなし会を定期的を実施しました。中でも乳幼児向けのおはなし会のニーズは増しており、わらべうたを中心としたおはなし会(2～4歳児と保護者を対象)を新たに実施しました。

○「おはなし会2・3・4」の開始(平成27年度～:県立図書館)※2～4歳児と保護者を対象

- 県立図書館において、県立病院小児科病棟に推薦図書を定期的に貸出し、入院中の児童・生徒の読書活動を支援しました。

○県立病院児童・生徒読書支援の開始(平成26年度～:県立図書館)

- 県立図書館において、少年院や少年鑑別所等の矯正施設にいる子どもへ読書による自己への気付きや成長を目的に、図書の貸出や譲渡による施設の読書環境の充実などの支援を行いました。

○矯正施設等の子どもへの読書活動支援の開始(平成28年度～:県立図書館)

③ **子どもの読書に関するレファレンス・読書相談の充実**

- ・県立図書館において、子どもや保護者、図書館職員、読書ボランティア、教員等からのレファレンス・読書相談に広く対応しました。

④ **子どもの読書活動に関する情報提供と支援の強化**

- ・県立図書館（子ども読書活動支援センター）において、ホームページや窓口を中心に、子どもの読書活動に関する情報提供を行いました。

⑤ **図書館担当職員（司書）の研修の充実**

- ・県立図書館において、全国や九州で開催される研修会・研究大会等に司書を積極的に派遣し、知識や技能等の習得に努めました。また、公立図書館等職員研修会を年間5～6回実施したほか、県内公立図書館等の職員を対象にした専門研修「児童サービス専門講座」を実施し、全県的な児童サービス担当職員の育成と質の向上をめざしました。

○児童サービス専門講座(平成26～28年度:県立図書館)※年2回

⑥ **障がいのある子どもに対する図書館サービスの充実**

- ・県立図書館において、大活字本や点字つき絵本等に加え、平成28年度からマルチメディアDAISY（デイジー）図書の貸出を開始しました。
- ・県立図書館において、学校や団体が対象の団体貸出文庫内に、平成29年度にバリアフリー図書コーナーを設置しました。

⑦ **情報化の促進**

- ・県内すべての公立図書館において、インターネットで所蔵情報が公開されました。また、県立図書館において、県内の公立図書館の所蔵を一括して検索できる横断検索を公開しています。
- ・障がいや居住地等により図書館を利用しにくい状況にある人への支援の可能性を探るため、県立図書館において電子書籍の試験導入を行い、ニーズや効果を検証しました。（平成30年度）

⑧ **公立図書館相互や関係機関との連携・協力の推進**

- ・県立図書館において、県内の公立図書館と学校図書館の連携強化のため、「大分県図書館大会」を開催し、関係者の情報共有に努めました。

○大分県図書館大会の開催(平成26年度～:県立図書館)※年1回

⑨ **学校図書館との連携・協力の推進**

- ・県立図書館では、県内どこからでも県立図書館の資料を利用できるよう、「大分県図書館情報ネットワーク（OLIB）」により所蔵情報を公開し、市町村立図書館を通じて、宅配による資料貸出を継続して行いました。
- ・平成25年度からは、支援対象を公立図書館・県立学校のほかに、公立小中学校や私立学校、大学まで拡大し、学習や読書活動を支援しました。

○大分県図書館情報ネットワーク(OLIB)の対象を拡大(平成25年度～:県立図書館)

⑩ 読書ボランティアの養成と活動支援

- ・ 県立図書館において、講師（子ども読書推進員）の派遣による研修支援や、県外講師による連続講座等を実施し、関係者の資質向上に努めました。
 - 「子どもと本をつなぐ人のための講座」（平成 27～28 年度：県立図書館）※年 3～5 回
 - 「子どもと本をつなぐための講演会」（平成 29 年度：県立図書館）※年 1 回

⑪ 調べ学習等への対応の充実

- ・ 県立図書館において、休館日の図書館を学校の調べ学習に開放する「スクールサービスデー」の実施や、県内の図書館や学校への協力レファレンスを行いました。また学校司書と児童を対象に、調べ学習の効果的な方法を学ぶ「調べ学習講座」を実施しました。
 - スクールサービスデー（平成 25 年度～：県立図書館）
 - 調べ学習講座（平成 19 年度～：県立図書館）

⑫ 不登校児童・生徒への支援

- ・ 県立図書館において、図書館がもつ機能・環境を活用することで、不登校の児童・生徒の早期復帰の支援を行うため、県教育センター「ポランの広場」の生徒を定期的を受入し、図書館見学のほか、読み聞かせや調べ学習、職場体験の体験活動を行い、不登校の児童・生徒が本と親しみながら早期の学校復帰のきっかけになるよう支援を行いました。また、県での取組を市町村に広げ、希望する市町村へ実施の支援を行う「不登校児童・生徒図書館等活用推進事業」を実施しました。
 - 不登校対策「ポランの広場」図書館活動（平成 25 年度～：県立図書館）
 - 不登校児童・生徒図書館等活用推進事業（平成 28～30 年度：県立図書館）

(2) 公民館における取組

① 読書に親しむ機会の充実

- ・ 県立図書館において、県内の読書ボランティアの情報をホームページで公開し、子育てルームや児童館、放課後児童クラブ等の子どもが集まる場において、読み聞かせ等の機会が充実するよう努めました。

② 読書環境の整備・充実

- ・ 県立図書館において、公民館や児童館等の施設へ長期に資料を貸出する支援（団体貸出）を行いました（1000冊まで・3か月間貸出）。

③ 職員の知識・技術の向上

- ・ 県立図書館が開催する公立図書館等職員研修会では、公民館図書室職員へも参加を呼びかけました。

(3) 読書ボランティアによる取組

① 情報収集・提供の充実

- ・ 県立図書館において、毎年、県内の読み聞かせグループ等のボランティア団体を調査し、情報をホームページで公開しました。

② 研修機会等の支援

- ・ 県立図書館及び県内公立図書館において、読書ボランティア団体のスキルアップや交流につながる各種研修や講座・講演等を開催しました。

③ 子ども読書に関わる機関や団体等のネットワークの構築

- ・ 県教育委員会（社会教育課）において、子ども読書関係者の連携強化をめざして「子どもと本をつなぐネットワークフォーラム」（平成26～28年度）を開催しました。また、フォーラムをきっかけに、地域で子ども読書関係者や団体のネットワーク化の動きが見られました。
- ・ 家庭・地域・学校が連携して子どもの読書活動を推進していくことをめざし県教育委員会（社会教育課）の呼びかけで、平成26年度、「子どもと本をつなぐネットワーク推進会議」が発足し、会議を重ねながら情報共有や交流を深めました。平成30年度からは、関係者が気軽に情報交換できる場を増やすため、「大分県子どもと本をつなぐ会」としてリニューアルし関係者の交流が継続しています。

○「子どもと本をつなぐネットワークフォーラム」(平成26～28年度)

○「子どもと本をつなぐネットワーク推進会議」(平成26～29年度)

○「大分県子どもと本をつなぐ会」(平成30年度～)

④ 「子どもゆめ基金」等の活用の促進

- ・ 国の民間団体に対する支援である「子どもゆめ基金」や各種財団事業による助成の情報を、公立図書館を通じて周知しました。

3 学校等における取組

(1) 幼稚園・保育所等における取組

① 資料・設備の整備・充実

- ・ 県立図書館では、幼稚園・保育園等の施設へ長期に資料を貸出する支援（団体貸出）を行いました（1000冊まで・3か月間貸出）。

② 絵本等に親しむ機会の充実

- ・ 幼稚園や保育所等での読み聞かせは概ね定着し、それぞれの施設において季節や行事にあわせた読み聞かせが、手あそびやわらべうたなどを取り入れながら行われました。

③ 公立図書館や保護者・読書ボランティア等との連携・協力の推進

- ・ 県立図書館の県内読み聞かせ等グループ調査では、幼稚園や保育所・子ども園を主な活動場所としている団体も見られ、地域の読書ボランティアと連携して園児が本と触れ合う時間をつくる取組が進められています。
- ・ 学校等と保育の現場が連携し、読み聞かせを学んだ児童・生徒が保育園等を訪問し、読み聞かせを実施する取組が多く見られるようになりました。

(2) 小学校・中学校・高等学校等における取組

① 学校における体制づくりの推進

【小学校・中学校】

- ・ 県教育委員会（社会教育課）において、小・中学校の学校図書館の開館体制の整備と活性化をめざして、「学校図書館活用教育支援事業」（平成26～28年度）を実施しました。事業のメインであるアドバイザー派遣（司書の専任配置がある小学校対象）では、モデル校へ民間の学校図書館アドバイザーを派遣し、1年間かけて、館内整備、蔵書の充実、読書活動の活性化、授業活用の促進を行いました。
- ・ 県の指導主事による学校訪問の際には、学校図書館に関する状況を把握するとともに、読書活動の推進についての指導と助言を行いました。

○「学校図書館活用教育支援事業」(平成26～28年度:社会教育課)

【高等学校】

- ・ 県教育委員会（高校教育課）において、県立高等学校の活性化を図るため、平成25年に教育委員会へ提出した提言「県立高等学校図書館の活性化・活用について」に基づき、「大分県学校図書館活性化推進プラン」（平成26～28年度）を実施し、校長、司書教諭、学校司書等の学校図書館関係者への研修会により学校図書館活用教育の体制作りと資質の向上を図りました。
- ・ 学校図書館活用教育に係る研究校（別府翔青高等学校）を指定して学校司書を2名配置し、学校図書館の活性化に向けて学校全体で組織的に取り組み、3年間の実践を県下の高校に普及しました（平成27～29年度）。

○「大分県学校図書館活性化推進プラン」(平成26～28年度:高校教育課)

○「県立学校図書館教育推進者研修」年3回(平成26～28年度:高校教育課)

○「県立臨時学校司書研修」年1回(平成26～28年度:県教育センター)

○研究指定校による取組の普及(平成27～29年度:高校教育課)

○「新任学校司書研修」年1回(平成29年度～:県教育センター)

○「図書館活用研修」年1回(平成29年度～:県教育センター)

② 読書習慣の確立・読書指導の充実

- ・ 「学校図書館活用教育支援事業」（平成26～28年度）において、小・中学校の学校司書等を対象としたスキルアップ研修会を県内6地区で年2回開催し、関係者の資質向上と読書指導の充実を図りました。

○『学校司書スキルアップ研修会』年2回×6地区(平成26～28年度:社会教育課)

- ・ 授業と関連した図書の紹介が容易にできるように、『授業に役立つ小学校ブックトークシナリオ集』（県教育委員会・社会教育課）を作成し、全小学校

へ配布しました（平成28年度）。

○『授業に役立つ小学校ブックトークシナリオ集』発行(平成28年度:社会教育課)

③ 学校図書館の整備・充実

- ・「学校図書館活用教育支援事業」（平成26～28年度）において、モデル小学校を中心に、授業で活用できる図書館をめざした資料収集について助言しました。
- ・学校図書館の蔵書のデータベース化（電算化）の取組は、小学校・中学校においては、地域差がありますが、全国平均より大きく進んでいる状況です。県立高校ではすでに全校整備されています。

(参考) 【学校図書館の蔵書のデータベース化の状況】

対 象	平成26年度		平成28年度		平成30年度	
	大分県	全国	大分県	全国	大分県	全国
小 学 校	84.5%	71.5%	84.0%	73.9%	-	-
中 学 校	79.5%	69.7%	85.6%	72.7%	-	-
高等学校	100 %	90.1%	100 %	91.3%	-	-

資料：学校図書館の現状に関する調査（文部科学省）

④ 学校図書館活用推進のための人的配置の推進

- ・「学校図書館活用教育支援事業」（平成26～28年度）において、学校図書館アドバイザー派遣等により学校司書の専任配置を推進したほか、学校司書の勤務を補完する学校図書館ボランティアを派遣する経費支援を行い、小学校における学校司書の配置充実を推進しました。
- ・さらに各市町村が作成する学力向上アクションプランへの位置付けなどを通して、小・中学校における学校司書の専任配置を促しました。
- ・小・中学校における学校司書の配置は、兼任も合わせると平成28年度に配置校が100%となりました。また、学校司書の専任配置の割合も大きく向上しました。

⑤ 家庭・地域との連携による読書活動の推進

- ・これから学校図書館で読書ボランティアとして活動する方々に向けてハンドブック等を作成しました。
- ガイドライン「変わる学校図書館 ひろがる学校図書館ボランティア」発行
 ○「学校図書館ボランティアハンドブック」発行(共に平成26年度:社会教育課)

⑥ 障がいのある子どもの読書活動の推進

- ・「第4回大分県図書館大会」（平成29年度）のテーマとして、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）に対応する学校図書館・公共図書館の在り方を設定し、関係者で課題を共有しました。
- ・県立図書館において、伊藤忠記念財団と共催し、公立・学校図書館関係者を

対象に「読書バリアフリー研究会」を実施しました（平成29年度）。

- ・ 県立図書館において、日本国際児童図書評議会（JBBY）と共催し、「世界のバリアフリー児童図書展－I B B Y選定バリアフリー児童図書2017－」として世界21か国のバリアフリー児童図書を展示しました（平成30年度）。
- ・ 県立図書館において、障がいの状態に応じた読書活動の充実のため、特別支援学校にマルチメディアDAISY（デイジー）図書など障がいを解消するため有効な媒体の導入が進められました。
- ・ 盲学校・聾学校以外の特別支援学校において、学校司書の配置が始まり、読書環境の整備や読書支援が促進されました。

（参考） 【県立特別支援学校における学校司書の配置状況】

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
配置校数	1	1	3	3	3
未配置校数	15	15	13	13	13

資料：特別支援教育課

4 普及啓発活動

（1）普及啓発活動

① 普及啓発活動の推進

ア) イベント等による普及啓発活動の推進

- ・ 県教育委員会（社会教育課）において、読書イベント「子ども読書サミット」を実施し、子ども司書の取組発表や児童文学作家の講演により、楽しく読書の啓発を図りました。

○「子ども読書サミット」年1回（平成28年度～：社会教育課）

- ・ 「子ども読書の日」及び「こどもの読書週間」に、県立図書館をはじめ、県内の公立図書館や学校図書館において、子どもが読書に親しむ行事が開催されました。
- ・ 県の教育委員会広報誌『教育だよりおおいた』に読書関係の記事や学校向けのサービス、県立図書館の行事を掲載し、県内の小・中・高校生と保護者へ情報提供と啓発を行いました。

イ) 優れた取組の奨励

- ・ 国の表彰制度への推薦を積極的に行い、優れた取組の奨励を図りました。さらに、県教育委員会（社会教育課）において、自薦による「大分県子ども読書活動コンクール」を実施し、学校・図書館・団体の優れた取組を広く掘り起こし、実践例を広く紹介しました。

○「大分県子ども読書活動コンクール」の実施（平成25～27年度）

ウ) 各種媒体による広報活動の推進

- ・ 県立図書館において、SNS（フェイスブック）を立ち上げ、子ども読書関係の行事や展示などの情報をすばやく発信しました。
- ・ 県立図書館において、大分合同新聞や子育て情報誌「ワイヤーママ」「クルール」でお勧めの本の紹介や行事案内等を行いました。

- ・県教育委員会（社会教育課）では、中学生に読書の楽しさや大切さを啓発するチラシを作成し、県内の全中学生に配布しました（平成30年度）。
- ・県の広報番組に子どもの読書活動を毎年取り上げ、啓発しました。
- ・大分合同新聞の子ども版『GODOジュニア』に子ども司書がお勧め本をリレー連載し、同世代の子どもへ本を紹介しました（平成28年度～）。

② 子どもの読書への関心を高める取組

ア) 子ども司書（子ども読書リーダー）の育成

- ・県教育委員会（社会教育課）において、市町村教育委員会と協力し、県の子ども読書リーダーとして「大分県子ども司書」の育成を開始しました。育成にあたっては、図書館・学校・読書ボランティアが協力して取り組み、地域の子どもの読書関係者の連携をさらに深めました。
- ・1年かけて育成した子ども司書は、県内各地の公立図書館や学校の読書イベントへの協力や読み聞かせなどの活動を行い、県民へ広く読書の楽しさを伝えました。

○子ども司書育成事業(平成28年度～:社会教育課)



活動例【読書イベントで読み聞かせ（中津市）】 【ビブリオバトル大会を運営（佐伯市）】

(参考) 【大分県子ども司書 協力市町村数と育成人数】 ※平成28年度開始

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累計
協力市町村数	6	10	12	268人
育成人数	88人	83人	97人	

※3年間で全18市町村を対象にモデル実施

イ) 本の魅力を同世代に伝える取組の推進

- ・同世代で本を紹介し合う取組により中・高校生の読書活動を活性化させるため、県教育委員会（社会教育課）において、ビブリオバトルの県大会を学校図書館協議会及び県立図書館と協力して開催しました。
 - 『ビブリオバトル指導者研修会』県内6地区で開催(平成28年度:社会教育課)
 - 『高等学校ビブリオバトル大分県大会』年1回(平成27年度～:社会教育課)
 - 『中学校ビブリオバトル大分県大会』年1回(平成28年度～:社会教育課)